

No.18

おいしーシリーズ
ニュースレター

2012 春

- 02 自主事業の活動紹介
- 03 受託事業の活動紹介
- 04 会員さんの紹介/おいしーシリーズ/OEC今後の予定/

メヒルギのつばやき

沖縄の春は、メヒルギの胎生種子（散布体）がすなりです。毎年、国場川河口干潟（漫湖）でメヒルギから種子が落ち、親木の幹まわりや湖底のくぼみに、まるで大きなもやしが生え広がっていき、実生が若葉を広げていきます。

今、漫湖における保全活動の一つとして、毎年のようにメヒルギの実生と幼木が引き抜かれ、マングローブの広がりを止めているのです。

なぜ漫湖にこれほどマングローブが広がったのか、それらの要因は二つ考



えられます。まず一つは、流域からの土砂やごみが漫湖に流入・堆積して、湖底が浅くなりマングローブの生育に適したレベルになったこと、二つ目に河口が閉鎖的で胎生種子が外洋へ拡散しないこと、などがあげられます。

沖縄のほとんどの河川で海水が入り下流や河口域において、メヒルギは自然に生育しています。三五年以上も前、漫湖でも上流部にあたる真玉橋や石火矢橋の近くに、同種の小さなコロニーがありました。

一九七〇年代、現在の県営団地近くの河岸に、同種の胎生種子を差し込んだ植樹した記録があります。昔、漫湖は山原船が航行するほど深かったといわれており、マングローブの生育には深すぎたと思われます。この四〇年で流域から流入したごみや土砂、汚濁物質などが堆積して、湖底が毎年1cmのスPEEDで四〇cm浅くなったことにより、マングローブの生育に最適なレベルの干潟（湖底）が広がったのです。加えて、もともと閉鎖的な河口域であり、自然のコロニーや植樹したマングローブにより、毎年産生される胎生種子のほとんどが漫湖内に定着したためヒルギ林の急激な拡大が起きました。

漫湖のメヒルギを主とするマングローブは、よっかい者扱いをされています。これら



利用する私たち一人一人であることを忘れ、そして渡り鳥が少なくなつたこともみんな流域からのごみをまとわされたマングローブのせいになっています。このことをメヒルギは、何てつばやきしましょうか。

（おきなわ環境クラブ 会長 下地邦輝）

国場川ワークシヨップ （サバナを海浜植物の植樹緑化活動）

三月二四日（土）に、第一八回国場川ワークシヨップを実施しました。前回は、河川敷の草刈後にツワブキの植栽を行いました。今回は定着が乏しい区域に、海浜植物を植栽し、急遽空いたスペースには会員さん達と、今回、初参加の高校生三人でサガリバナを五本植え、記念植樹をしました。

更におまけとして、同じ区域にあつたサズルをもらい、来年、お芋掘りをするのが楽しみだと盛り上がりながら、一畳ほど耕して苗植えを皆で行いました。

この区域は、去年から集中して作業を続けており、他の区域に比べだいぶ整備がすすみ、植栽したツワブキやハマオモトなど、海浜植物の開花がそれぞれ確認できています。また、参加者たちの丁寧な手入れのお陰で、雑草やギンネムに覆われていたサ

ガリバナが顔をだし、去年の十一月には開花も見られました。

地域の方にも少しずつ認知され、声をかけられることも多くなりました。

引き続き、この活動を通して、地域と国場川をつなぐ「場」となるよう、皆さんと楽しみながら継続していきたいと思っております。

興味のある方は、ホームページでも詳しく紹介していますので、是非、チェックして下さいね。

（研究員 上田絵理奈）



「自然と環境の保全は足元から！」

OEC 会員との
親睦会をおこないました

三月十日(土)、OECの会員を対象に互いの親睦を図るため、交流会を開催しました。当日の様子を少し紹介します。

「国際通り周辺のサガリバナ観察
と壺屋散策ツアー」

場所 国際通り周辺と壺屋周辺(一六～一八時)

第一部のツアーでは、顔なじみの会員さんをはじめ、初めて顔を合わせる方、何年ぶりの会員さんなど、スタッフを合わせ、計十五名の参加がありました。

はじめに、ガイドから那覇の明治初年の地図と昭和四年頃の地図が配布され、那覇全体の地形がどのような変化をとけているのか解説がありました。

前半は県庁横コミュニティ通りをスタートし、国際通り周辺にあるサガリバナ観察の他に、路地にあるティラガ(井戸)やお墓、また筋道を抜け沖映通りのガープ川を見学しました。

後半は壺屋散策へ。てんぶす館横から壺屋に入る道は、工事で景観が変わっており、会員からは「昔と違う〜!」と声が上がると、知らない内にどんどん変化していく街の様子を惜しむ声が聞かれました。

壺屋通りでは、ニシヌメやフェエヌカマなど、ガイドならではのお話があり、意外と知らない壺屋の歴史に、参加者は興味深く聴き入っていました。

終点はてんぶす館に戻り、「見なれた風景も普段とは違う視点で歩くと楽しい」とガイドの話を最後にツアーはあつという間に終了しました。



「今日は、ガイドの解説を受けて面白かった。実は壺屋のコース内に従姉弟の家があったのだが、今度行くときは違った雰囲気になるだろう」と感想がありました。他にも「自分でも歩きながら新しいことを発見してみたい〜」など、好評の声が上がりました。初めは少し緊張していた会員さん達も、ツアーを終える頃には、お互いすっかり打ち解けた様子でした。

「OEC 会員交流会」

場所 那覇市てんぶす館(十八～二十一時)

ツアー終了後の第二部では、お待ちかねのオードブルとドリンク類を並べて交流会がスタートしました。

会長の挨拶をはじめ、自己紹介では、一人一人の紹介に熱が入り、予定をオーバーする程に話が盛り上がりました。

その後、事務局長から「平成二三年度の活動報告」をおこない、「緑の good」や「い・か・こーら社」から頂戴した寄付金の説明と活動予定について話がありました。

後半は、これまでの国場川ワークショップをふりかえりました。スライドを使って当初の活動から現在までの様子などを説明し、改めて皆さんと体験や情報を共有し

ました。会員さんからは、「この活動で河川敷がきれいになっている」との感想があった一方で、「なかなか雑草には勝てない」、「外来種のギンネムを他に利用できる方法はないか」など、活動に対して、会員同士で意見交換をする場面が見られました。これまで、事務局が中心になってこの活動を準備・実施してきましたが、今後、会員さんの意見を積極的に取り入れて活動ができるようになることを期待できました。

最後は、顔なじみの会員さんから閉会の挨拶を頂き、「今日一日本当に楽しかった!」と嬉しい声で会を終了することができました。



地域の行事に参加して
ブースの出展をしました

JICA 国際協力・交流フェスティバル 2011
昨年の十一月二十七(土)、二十八(日)の二日間、JICA 沖縄国際センター



で国際協力に関連する団体が集まり、屋台やお土産販売各団体の活動紹介がありました。また沢山のイベントが開催され、全体で三五五名の来場

があったようです。私たちのブースでは、OECで実施しているJICA研修の紹介をしました。また団体の活動紹介とあわせて、漂着種子を使った「クラフト工作の体験」を設けた事で、子供からご年配の方まで幅広い年齢の方に楽しんでいただきました。

おきなわアジエタニニ県民環境フェアニ南城市

十一月二十(日)、玉城総合体育館に県内の環境行政NPO 団体や企業等が集まり、日頃の環境活動を紹介しました。来場者は、屋内展示に野外でのエコ体験など、親子で楽しめるとあつて約二千四百名の来場者があつたようです。OECは、人気の「アクアプランター工作」体験コーナーを設けたため、終日、親子連れで賑わっていました。



第十七回 国場川水あしび

十二月恒例の水あしびでOECは、『探検! 漫湖にある水辺植物ってなんなんだ?』



のテーマで、漫湖の豊かな生態系と人間の関わりについて学ぶ体験を準備しました。子供達はいにくの天気にも負けず元気いっぱい楽しんだようです。

(研究員 上田絵理奈)

◆ 受託事業の活動紹介 ◆

沖縄県地域環境センターへ地域環境セミナー
「育もう地域の環境力！
～元気な子どもエコクラブづくり～」

三月十七日(土)に県内の子どもエコクラブ活動支援の一環として、主に子どもエコクラブのサポーターを対象としたセミナーを開催しました。(参加一七名)

まず、県内の子どもエコクラブ四団体による活動発表が行われました。最初に発表した「OMRC」もエコクラブは、恩納村のルネッサンスリゾートホテルを拠点に様々な活動を展開している様子について発表しました。施設に飼育しているイルカやエイとの体験プログラムは特徴的で、参加者の興味を引いた様子でした。

次に発表した「もとぶ元気村」もエコクラブは、講話やゲームを通してリュウキユウメダカの学習をし、ピオトープを作り、実際にリュウキユウメダカを育てながら、命を守り、育てることの大切さや難しさ、楽しさを学ぶ様子を発表しました。

次の「西表ヤマネコクラブ」は、十五年も前から活動しているクラブです。身近な河川の水質調査や、サバイバルキャンプ、漂着ゴミの多い島のビーチクリーンと「ゴミの調査、干潟の観察や、毎年継続的に行っているホテルの観察」について発表しました。

最後に発表した「はなぞの児童クラブ」は、地域環境センターの子どもエコクラブ活動支援などを活用して様々な自然観察・自然体験活動を行い、食育としての野菜栽培、緑のカーテン作りなどの活動を展開している様子を発表しました。エコクラブの

活動を通じて、環境への関心が高まり、自分で考え行動する力や、「もったいない」という感謝の



情報交換のよい機会になりました。

こどもエコクラブ全国事務局から来ていただいた講師による講演がありました。

講演では、全国事務局がエコクラブにおこなっている様々な支援の紹介があったほか、サポーターとしての大人の役割、また全国の様々なクラブの活動事例の紹介があり、参加者は熱心に聞き入っていました。最後に行った交流会では、三グループに分かれ、自己紹介のあと、各自の経験や思いをグループで共有していききました。それぞれの団体の情報を交換する中で刺激を受け、自分たちの活動について改めて考える機会となったようです。

終わりに、司会者から「エコクラブの間で環境教育に対する思いや工夫、感動を共有することで、これからの活動の糧にしてほしい」と、他のクラブとの交流を図ることとお互いの活動が活性化するきっかけとなればとまとめ、セミナーは終了しました。

(研究員 立田亜由美)

OECCは平成二十三年度をもって
沖縄県地域環境センター管理運営
業務の受託を終了しました。

九年間の間、ありがとうございました。
センターは、平成二十四年度から沖縄こども国チルドレンズセンター内に移転します。

JICA地域別研修

「島嶼国漁村主導型水産多様化促進」

大洋州島嶼国における水産業は、地方・離島部住民の生計向上を実現する数少ない手段の一つであり、その振興は、各国政府の優先課題です。水産資源を持続的に活用し沿岸村落の振興策を成功させるには、資源の評価、漁業の管理、付加価値の向上、代替産業の振興といった様々な施策を統合的に、かつ長期的に実施する必要があります。その成功には、現場の可能性と制約を熟知する住民(漁業従事者)のオーナーシップ醸成が必須です。

JICA沖縄とおきなわ環境クラブは、専任研究員とともに、漁業従事者に向けた具体的な資源管理型の漁業技術の普及を切口に、行政と漁業従事者が一体となった漁業資源の管理体制づくりと生計向上を目指し、沖縄研修と在外補完研修の組み合わせで技術研修を実施しました。



国頭漁業協同組合で学んだ竹製バヤオとキリバス式アンカーを組み合わせ、バヌアの三地域の住民と一緒にバヤオを製作。小型ボートでも操業可能な沿岸域に敷置しました。



JICAプロジェクトでトンガのシヤコガイ種苗をバヌアのMPAに移し海面養殖を実施しています。地域関係者の管理により、観賞用シヤコガイとして大きく育てていることが確認できました。



フィジーピタワ村のミルクフィッシュ養殖プロジェクトが地域にもたらしたインパクトについて、研修員が関係者にヒアリングをおこない、その結果を住民に報告、今後の展望について討議をしました。

(事務局長 吉田透)

会員さんの紹介



お名前 金城信康さん(62歳)
お住まい 恩納村
会員年数 10年以上

Q: OECに入ったきっかけは?

十年以上前、自宅庭に甘い香りのする花を植えようと探していて、おもしろまち(新都心公園内)の緑化センターで開催していたOEC主催「サガリバナ教習会」に参加したのがきっかけ。三年前には、国場川の緑化活動に参加。

Q:好きなことや続けていることは?

二十代〜四十代は、東京でSE(プログラマー)をしていたが、五十代で沖縄に戻ってきた。それから地元恩納村で海人(アーサ職人)をしている。一月〜四月上旬は収穫時期で忙しくしている。アーサ採取場の干潟、屋嘉田潟原(ヤカタカタバル)を案内してあげるよ!



Q: OECをやりたい人は?

海のガイド講座があれば受けてみたい。地元恩納村の観光発展のため、観光客を受け入れる際に必要な専門的知識を身につけたい!

おいしいシリーズ-歴史散策-

壺屋やちむん通り

「南窯(ふえぬかま)」



壺屋焼物博物館からすぐ近くに、壺屋にたどり残った荒焼の登り窯「南窯(ふえぬかま)」がある。石畳のやちむん通りを少し左に入った大きなガジュマルの木の裏手に、まるで時間が止まったかのようにひっそりとかまえている姿が印象的だ。

三百年前、琉球王府が全島各地から窯を集め統合した際に、王府が作って与えたものだそう。あまり目立つた看板などはないが、実は「沖縄県指定文化財」にもなっている。

壺屋やちむん通りの歴史を感じられるこの南窯に、皆さんも一度足を運んでみてはいかがだろうか。

(研究員 余田幸和美)



山積みに破棄された不作の瓦と共に絡み合いながら根を生やすガジュマル

今後の予定

自主事業

◇国場川右岸河川敷

サガリバナと海浜植物のお手入れワークショップ
(二か月に一回、第二土曜を予定)

【日程】

- 第十九回 五月十二日(土)
- 第二十回 七月十四日(土)
- 第二一回 九月八日(土)

【時間】午前十時〜十二時

※日程が変更になる場合もありますので、詳しくはお問合せ下さい。
※用具はOECで用意いたします。

◇「夜のサガリバナ鑑賞会」

七月〜八月予定

※詳しい日時・場所については、企画が決まり次第、新聞やホームページ等でご案内します。

寄付活動(コカ・コーラ社)

◇漫湖水環境改善に向けた啓発活動

三月〜十二月

受託事業

◇JICA沖縄 研修受入事業

- ・アジア大洋州地域 熱帯・亜熱帯エコツアーリズム企画運営 十二週間
- ・国別研修 エコツアーリズム企画運営(ベトナム) 六週間
- ・水産改良普及員養成 八週間
- ・中南米地域 熱帯・亜熱帯エコツアーリズム企画運営 九週間
- ・持続可能な観光開発(カリコム諸国)七週間
- ・島嶼水環境の保全と管理 八週間

新職員から一言

はじめまして。地域の方々と密に関わりながら、沖縄の自然文化の魅力をたくさんの方に気付いてもらえるよう、頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願います。

(研究員 余田 幸和美)

特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ

<http://www.npo-oec.com/>

自然と環境の保全は足元から!

おきなわ環境クラブ(OEC)は、水辺環境の環境保全活動をきっかけに、地域の自然保護や環境保全の気づきが広がることを目的とした、子どもと大人のNPO/NGO 団体です。

〒902-0075 沖縄県那覇市国場 370-107
TEL:098-833-9493 FAX:098-833-9473
e-mail :kokuba@npo-oec.com

